

子育て体験記

女性側から見た男性の育児休業

公務員 N. A

夫は職場の方々のご協力があり、子どもが生まれてから2ヶ月間の育児休業を取得しました。

最初は、私と子どもは実家で過ごし、夫に毎日のように通ってもらい、1ヶ月検診が終わったあとに自宅へ戻りました。

夫が育児休業をとったことで一番助かったことは、育児の分担ができたことです。

初めての育児で何をしたら良いのか右も左もわからないことだらけでしたが、お互いできることを増やしつつ、ちょうどいいバランスを探っていました。

例えば、沐浴のときには洗う人と服を着せる人に分かれて入っていました。最初はかわりばんこで洗っていましたが、どうしても手が小さい私が洗うより夫が洗ったときのほうが安定して子どももうっとりしていたので、沐浴は完全に夫の担当になりました。オムツ替えや授乳後のげっぷのような細々とした育児も交代交代ですることできるだけ同じ時間を共有するようにしていました。

また、私が産後1ヶ月の間少し体を動かすだけで痛みがあり、満足に動けない日が続いたのでその間は育児のほとんどを担ってもらっていました。出産のダメージは交通事故にあうのと同じという例えを聞いたことがありましたが、本当にそんな風に感じました。

2～3時間おきの授乳のため昼夜逆転して細切れの睡眠が続くなかで、寝かしつけを代わってもらい睡眠をとって休むことができていました。元々は自宅から実家へ通ってもらっていましたが、子どもを寝かしつけてから帰るといってそのまま翌朝を迎えるようになりました。

あの時間も1人で子どもを見ていたらとてもじゃありませんが体がもたなかったと思います。

自宅に戻ってから私の痛みが落ち着いて少しずつできる家事や育児が増えてきたとき、その分夫は子どもとのふれあいが多くなり、家族の笑顔が増えていきました。こんなことをしたら笑ったという情報を共有してマネをしてどっちがより笑わせられたか競うこともありました。

育児の分担ができていたことでちょっとした育児の不安や心配事の相談がすぐできたこともありがたかったです。検診の前には保健師さんに聞きたいことを2人で整理して聞き漏らし

がないように落ち着いて向かえていました。

体力の面だけでなく気持ちの面でも2人で育児に取り組めたのは大きな助けになりました。

夫が育休をとったこの2ヶ月で家族3人で暮らしていく土台をつくることができたと思っています。夫の仕事復帰や子どもの成長に伴って生活スタイルは変わっていき心配事もありますが、夫婦がお互いに相談できる環境、子どもとのふれあいを大切にこれからも積み重ねていきたいです。

